

戦略的対外発信拠点「ジャパン・ハウス」事業の実施

【令和2年度政府予算額:3,775百万円の内数】

「戦略的対外発信の強化」の必要性の高まり

その一環として、主要国において**対外発信拠点**が必要。



- ・自民党外交再生戦略会議 中間取りまとめ(2014年5月)
- ・骨太方針2014(同年6月)
- ・自民党「外交力の飛躍的強化を求める決議」(同年11月)

「**ジャパン・ハウス**」をロンドン、ロサンゼルス及びサンパウロに設置。

ジャパン・ハウスの機能



講演, セミナー等



展示



書籍, ウェブ等



物販



レストラン

ジャパン・ハウスの3つの工夫

公的機関の拠点を集約し、日本に関する様々な情報がまとめて入手できる**ワンストップ・サービス**の提供。

カフェ・レストラン、ショップなどの商業スペースを設けるとともに、民間の活力、地方の魅力なども積極的に活用した**オールジャパンでの発信**。

専門家の知見を活用しつつ、**現地のニーズ**にきめ細かく対応し、現地の人々の共感を呼ぶよう工夫した発信。



日本の多様な魅力、正しい姿を含む政策・取組の発信を通し、これまで必ずしも日本に関心なかった人々を含む幅広い層を惹きつけた上で、**親日派・知日派の裾野を一層拡大**させていく。

戦略的対外発信拠点「ジャパン・ハウス」事業の実施

サンパウロ 2017年4月開館



ショッピングモールや美術館等が立ち並ぶ、サンパウロ中心のパウリスタ通りに2017年4月30日開館。2019年5月28日で来館者150万人を突破。同年12月末時点の来館者数は約192万人。パウリスタ通りの主要文化施設として定着している。

ロサンゼルス 2017年12月部分開館
2018年8月全館開館



アカデミー賞授賞式会場のドルビー・シアター等が入居するハリウッド中心地の施設に所在。2017年12月20日にギャラリーやショップがある2階部分を先行開館。2018年8月24日、5階を含む全館が開館。2019年12月末時点の来館者数は約38万人。

ロンドン 2018年6月開館



富裕層が多く住み、店舗が建ち並び人通りの多いケンジントン地区に所在。2018年6月21日に開館。同年9月の開館記念行事には英国王室からケンブリッジ公爵殿下、我が国から麻生副総理が出席。2019年12月末時点の来館者数は約79万人。

在外公館文化事業

【令和2年度政府予算額: 234百万円の内数】

在外公館が管轄地域における対日理解の促進や親日層の形成を目的として、外交活動の一環として主催(共催)する日本文化紹介事業。日本伝統文化(茶道, 華道, 書道, 折り紙等)のレクチャー・デモンストレーションやワークショップ, 日本映画上映会, 邦楽公演(和太鼓, 三味線等), 武道のレクデモ, 日本語弁論大会等を企画・実施。近年は, アニメ・マンガ等のポップカルチャー紹介や和食のPR等も積極的に奨励。



折り紙について説明を受けるタジキスタン文化大臣(左)



邦楽公演



福岡県公式キャラクター「エコトン」との記念撮影

タジキスタン「第4回日本祭り」 (平成30年10月)

- タジキスタン文化省, 外務省等の協力を得て日本祭りを開催。邦楽公演, マンガ・アニメ紹介, 浮世絵体験, 東京オリパラでタジキスタンのホストタウンとなる青森のPR等を実施。
- タジキスタン大統領の計らいにより, 同国で最も格式の高いオペラバレエ劇場を日本祭りの会場として無償提供。
- タジキスタン文化大臣, 第一外務次官等, 約3,000人参加。

エクアドル「キト日本祭り2018」 (平成30年8月)

- 日エクアドル外交関係樹立100周年の機会を捉え, 「キト日本祭り2018」において邦楽公演, 各種展示事業, 日本映画上映会等を実施。
- エクアドル外務大臣, 通信・情報社会大臣等, 約25,000人が参加。
- 河野大臣のエクアドル訪問とエクアドル大統領の訪日の間の期間に実施することにより, 周年の機運をより一層増長。

ベトナム「アジアンビート福岡祭り2019」 (平成31年1月)

- ハノイ市内のイオンモールにおいて, 福岡県との共催により, 福岡ご当地アイドルのライブ, J-POPコンテスト, よさこい, 福岡ツアープランコンテスト, 福岡県・ハノイ市友好提携10周年パネル展示, 福岡観光ブースの出展等を実施。約72,000人が参加。
- 特に若年層の対日関心・対日理解を促進するとともに, 福岡県へのインバウンド拡大に寄与。

国際交流基金事業

(運営費交付金)

【令和2年度政府予算額: 12, 672百万円の内数】

事業概要・目的

概要と目的

- 国際文化交流を担う専門機関として、外交政策を踏まえつつ、文化芸術交流、海外における日本語普及、日本研究・知的交流に資する事業を実施し、対日理解を促進しつつ、国際社会における我が国の地位を向上させることを目指す。



(c) Andrea Sartì/CAST1466,
国際交流基金提供

第16回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展(2018)



マレーシア・マラヤ大学 予備教育部
日本留学特別コース



日米センター25周年記念事業シンポジウム
基調講演者 ジェラルド・カーティス氏

事業イメージ

● 文化芸術交流

日本の文化や芸術を舞台芸術、美術、映画・テレビ、翻訳出版等様々な形で世界各地に発信すると同時に、文化諸分野における人と人との交流を促進。日本のこころを世界の人々に伝え、言葉を超えた共感の場を創り出す。2018年にはパリを中心にフランスで開催された大規模な文化・芸術の祭典「ジャポニスム2018」の事務局を務め、300以上の幅広いジャンルの事業企画を通じ、350万人以上の来場者を集めた。

● 海外における日本語教育

より多くの人々に日本語を学ぶ機会が与えられるよう、また、日本語学習を長く継続できるよう、日本語教育の基盤や環境を整備するため、各国・地域の政府や自治体、教育機関等と連携し、それぞれの教育環境、教育政策、学習者の目的や関心に十分に対応した事業を実施。なお、外国人材受入拡大のための日本語教育事業を、2018年度より実施。

● 日本研究・知的交流

海外の日本研究者・研究機関への支援を通じ、日本研究の振興を図ることで、各国・地域における対日理解の深化及び対日関心の維持拡大を目指す。また、国際的な重要課題、我が国と各国の共通の関心事項について、日本と海外の人々との間で対話の機会を設けることで、日本の対外発信を強化すると共に、将来の対話や交流事業を担う人材を育てるための事業を推進。